

法話概略【『敬老』を改めて考える】

昨日は延期となっていた『光寿苑敬老を祝う会』が無事決行できました。ありがとうございました。お年寄り方々も喜んでおられて安心しましたし、中には、『もっと観たかった。短かった。』という声も頂きましたので、お年寄りたちにとって良き時間であった事、また、その時間を創ってくれた介護の皆さん、ありがとうございました。もう少し演技の精度をあげれば、さらに良くなるのだろうかと思いました(笑)。また、延期となった9月14日と昨日の2回に渡って特別な食事提供を柔軟に対応してくれた調理の皆さんにも感謝申し上げます。おかげさまでした。

さて、その『敬老』という事について、少し今日は考察してみたいと思います。
かのむのたけじ先生は講演の中で、

『そもそも、高齢者という言い方はいかなものか？高齢者とするならば、若年層は低齢者と呼ばなければおかしいわけで、そんな言葉は存在しないでしょ！老人は老人でいいし、年寄りとは年寄りと呼ばばいいんですよ。『敬老会』というのも気に入らない。会の時だけ御馳走で振舞い、演芸の舞台を年寄りに見せておけばいいような場が多い。日常では年寄りはないがしろにされていて、何が敬老かと思う。普段から年寄りを大事にしなくなった日本を悲嘆している。』

と述べています。日本の現状と言え、敬老会以外の364日は敬老どころか、お年寄りを大切にしないような実状にあることを厳しくご指摘されたお話しであります。

光寿会で考えてみますと、365日毎日が敬老の精神で送る場所です。普段の一つひとつのケアを大事にすることが『敬老』そのものとなります。日々の敬老の積み重ねがあって、敬老会も深みを持つ。なぜ、光寿苑で敬老を祝う会を催すかと言えば、私たちも日常、お祭りがあるからこそ、あたり前の日常のありがた味もまた振り返る事ができる。よって、昨日の敬老を祝う会があって、また今日からの364日の日常の敬老の日も始まっていく。そしてまた、次回の敬老を祝う会を喜びあって迎えられたらいいなあと願っています。

重ね重ね、皆さんの敬老の営みに感謝申し上げ、朝礼講話と致します。

その他連絡事項

- ① 昨日、骨折の診断となったYさんですが、記録を追っていますが原因等、まだつかめておりません。何がどうなって起きたのかをきちっと調査し、結果、原因がつかめなかったとしても、調査結果をご家族にご報告したいと思っておりますので、宜しくお願い致します。
- ② 私が20代の頃の話です。当時Yさんという寝たきりのおばあさんが入居されておりました。夜勤でその方のオムツ交換をしようと横を向いて頂いた時に、「痛えっ」と訴えられました。夜の間中痛みは治まらず、次の日受診し大腿骨骨折ということになってしまいました。高齢であり骨がもろい状態でもあるから…ということでその時その件は流れていったと記憶しています。そのことを今改めて思い返すと、当時の私は「こんな仕事辞めたいな・・・」と思っていたりする時期でありました。そうした思いがケアの荒さに繋がっていたかもしれません。また私は特に夜勤の場面では相方の職員さんに「迷惑を掛けられない」とか「仕事が遅いと思われたくない」等、気を遣ってあせってしまうことが多いのですが(今でもそうですが)、そうしたあせりがケアの雑さに繋がってしまったのかもしれません。こうした気持ちやあせりがケガに繋がってしまうこともあると思うので、皆さんも人手が足りない状況も多い中ですが、できるだけ心に余裕を持ってケアにあたって頂ければと思います。
- ③ 本日、次の入居の方の検討委員会を開催予定です。
- ④ 下半期の目標設定を各部署・各ユニットでお願い致します。〆切は10月21日です。
- ⑤ 10月分の『動きだしんぶん』です。各自、ご一読下さい。
- ⑥ 今月は研修会が目白押しです。10月14日夜間は外部講師による『防災研修会』、10月24～25日は『事故防止対応研修会』があります。一つ一つ大事に取り組んで参りましょう。

【講話、③、④、⑤＝光寿会理事長 ①＝看護師、生活相談員 ②＝生活相談員】